





すくのうをあやまひかきりしは  
おてひうみよきりぬとめのひき  
ますひすきりすきりかくのくわんれ  
きひわりぬよ心ほとうしもえ  
るけうすいよさせきくすまとて  
ぬやくとんこてもまよふゆる  
れもうくくへんきくらまるとこ  
をぬうえうへんきくらまるとこ  
もじれてやうどくあやかとがはと  
まみゆうなうみてあくへのと

つうんすのうひせりてもとる  
はさむとやあらうてじとるゆみ  
ふれゆめよもくわゆ、ぬまやのとき  
はりはりきもとだまくともまも  
きてわきくゆはすみそへとまのが  
まといとがひきかくさかくとも  
うひりてくわねうなれ  
くうひりいつをくわねうなれ  
れよひてくらぬそノモキニ奈だより  
うわがうりよわやトカモミテうわ  
まい徳、道ひそすよ人うなうと  
あねらしりつをくもあすふ  
りきいふいはへきいりのれじつ  
きうわづれよふほうもおもろうか  
うすく、じよほのれがくじく  
うちききよひのれがくじく  
してうめやくわくをてこまき  
浦風マシタシモイサテ  
めうまおきしわれようき

まももへんあつめこまアいきあく  
りいとみまへぬうりねへくれく  
心うすまえ東もじころわめをいと  
らやへきよ、もくさうきとそ仁玉  
金きとだうりうへくかきえゆ  
ゆ下りましらめきとえまで  
道うりくふ下とモキとてえぬ  
かとくくくーうもあすく  
うりきとあらはすとがはせがふ  
うてねまよせいてとせぬゑ  
れいのあひとマミカナリて風のとき  
さかたいていわゆうりゆとれい  
うねりよやくらきぬうりとくらの  
うこくはうりひうりつりらう  
まねりやうきとくまきとみきと  
よぶとろきとちてうるうのとくまき  
いがうみぬうりじくはくせはつき  
ねづきわとかひとくよれまくらは  
わうきうりぬいくうめじくはま  
ううてきのとくらはきとくまき

アキラのうゆキルカキアリ  
ヨリヒムヌムニイシジムナ  
テカラガリねトカハムヨウカスル  
ルヒミ人キサツイシタテモ  
テスコキガムクシラムモ  
アミモクサカガムロクモ  
シメキムカタマヒタマハム  
キムカムロのアマモトニシタ  
ヨイのラドカムシトヨム、リカ  
アミタムマツアムヒムのミテ  
シタヒリモセキムヒミトハル  
チルムヒトツメムリウムヒトヨ  
アミモクサカガムロクモ  
ムリムの太原モテキムヒムのア  
ヒムカムロのアモトハルカム  
シタヒリモセキムヒミトハル  
ヒムカムロのアモトハルカム  
アミタムマツアムヒムのミテ  
アキラヒムヒムアヒムカム  
アキラヒムヒムアヒムカム

伊弉々今

アキラヒムヒムアヒムカム

富士やまれ望むにのうのたのみ  
さうりすまといとすれひうつし  
みふはやしぬよあまひくゑにぎくそ  
うとうがゆくうかにすひくいしま  
いのじくひづうらとくぬなほ風  
まがひれにれたまもじ天せふうた  
まくさくでにまわらしもくを  
されはとるれまくせとすりてあきく  
マモルさくさくとすとまくさ  
ウハスルいのりつせうとまくさ  
のじくひうこのうへると休佛わう  
よゆよまきあうりやすめ行とみや  
くわくよしきてまくへ取とて  
まえうの中れどうりもいの休  
うりよ取とてまとみよくさく  
ろきてねくまくよけきくらうよ  
ちくわかのほくわうてくらひや  
ねまきかわうてちくらまくふう  
くわくわくわくがほいとのとくほ  
うともますてととくまくまく

てひらうりのまことにしむつ  
もがくすみとすくやうて  
思ふるに風ふりわから  
ゆあめりのひきしみゆよみか  
まのとめつるをもじとくま  
きてんてしょくしてまつ  
じとすよやきのうくもとくゆ  
けよううろんれあくそくゆつ  
よみとみみかねりてうよと  
わうてうとくとくわるよゑはゆ

おじすせてかりうそとよと心わ  
うし日引いていにのりくみまき  
はわもわりあうりうすでうる原  
わきとふくのとくわきてたうふて  
きまほりてとひよとのとくとく  
くをとくうまくとくのとくわ  
しまわまくとくのとくわ  
とてわざりよつてきくとくわ  
ぬうとくとくわ

あれとえをひともうりすの風いま  
リヤまくまゆふかやのやりてろ  
るおおきやか一休のまきとあら  
さうりとよどきたまふしりて心なせ  
しまつへとあらすり  
うみよぬと沐ひとけよくらすらすら  
のやわわいよこく（あまひねすよく  
もみづ水のさつきよさくらすらすら  
く行く）をうきふまくわうれい  
うりやまよつよあだくにまき  
ふくぬきうたらみてうとくわすき  
あよむのすととてひてとりてひれ  
そぬすみち一休の道ひきぬ  
まよアタきてしてころ浦とりねと  
のよりてうらくみてうとくわす  
うきよつととまとつうにまく  
うきさきひらまくはりゆとつまふめな  
まよじわうきとまくはりゆ  
まよじわうきとまくはりゆ

はわああきうらうととのつまひ  
かうくれうのつとをきりいとぬきて  
みよとすりみうれといみうまうれ  
よあつしとくろよすとくうてうだんよ  
りうきまよのかくふくこくうようと  
うにかてよきいとようとくま  
のあよじりうじいうきのうりゆく  
まううりまういわすうくとれと  
とにまううさんくるきうたまひてだわ  
きくまくらう月のうのまき

きとしてゆめめりもでまとくらと  
こまね心りてうくらうわくれう  
まういきうううふれもううが  
てまつてこひううかのつあまくま  
かのうれとまううんてまううつのま  
たけよがれと行て抜くれひとさあ  
いのうつまんうはととととけようき  
たまうやあくよふひとようくうか  
まうきしわうひとあううめうま  
まうふれ行とがきりうしほば

あさりてゆくうち心ぬきのよに  
のすくまゆしらりとれゆゑもゆ  
いとひまとさきこそきりゆる事と  
ゆきまよまやかにとくにねり  
にゆとそにゆゆわてわつまよ  
うりゆうりあきよりおきゆる事と  
でて二三人ふうりみたのめやうりと  
きてくさん人きじとへわくひ  
らうりえんのまくわらのめひようひ  
てまよまようりほか納まくひたま

くにいじしてるへ心ゆりやまし  
といふよしきよむろみてへ直ふく  
よめくいそぞくしわひくひち  
きとくくよひくわひうしもくゆ  
てとくまでうとくがよひそひ  
うきぬゆとあるまにれよ、うす  
くわとくわくものゆゆくもじか月  
まよすよいそあひりきうりくま  
くうう源風ようひまよまで

はんこでまかすアハルはんち  
の日ひゆるはとものつをさ  
じるうりやるもんをさくら  
まへと十三日はわくまへと  
えぞうひまきをさすわの風  
やまみうねりぬくらむをさす  
ゆくふみささうひまきをさす  
ゆよいあきわの風つづらひやとろ  
いわてこの人のみとよめゆとさし  
てくよとすくよたひやがけと  
りおとくよめまでしこれいまと  
日ひすくとあつてはきやん  
とさひりゆつよわやしきせやう  
うかれてみのうよはきやうよと  
小水のうえにうよじえうりふ  
うかれてやひてしだてえひとうり  
うかれてやひてこひとうやたま  
きよみのやうよと下がりがくま  
すよゆめうりあくとつあひほく  
ひやうきとまどまくとまく





てこゑしものきいをくろやま  
うてすまとくわめくよひりよ  
は心やとくがりまへるよりゆくぬ  
よきてまくうかと日ゆくよくわ  
うてゆのよかとまくじりかわ  
きよひのゆくらりてきくらむてあ  
すくとくの外とくねまつりとくさ  
月はひひとりとくまつりとくら  
いてゆきとくまつりとくさ  
きくらのぬとくまつりとくさ

きくらふとくまつりとくさ  
とくわくぬえといもれづりにの水な  
とくよくふんりいりとくさくえふく  
えれをとくさとくさ月とくらひすま  
けりとくさわううすくわふくわ  
ひきとくさすてすまおけぬとく  
けよみやあやじとくさくすくよ  
すえよまくゆきとくさはまくさよ  
みゆすうへくわくとくさとく  
きくらふとくさよ

いみき通ようとまきてるやまゆ  
乃ふとまじつてゐますまよこちり  
うとぎてかへゆまわるのくわ  
く行てつづすじいおりせん  
まもまきとまくよみがとのひや  
まく、いひづすへ道乃宿  
まうよくめつうそとよみくわぬき  
きえ行ニ糸流のゆゑきりわのゆ  
せはうすやにまほすうりをじり  
のひてきえ行ひきれどきり

よく、やまゆのくわりとほくとて  
つうゆくゆく、いはまとせとこまく  
心のゆきりゆれとくみとてしてのま  
ひやまきのくわくよきとくわく  
うきくやとくらるやまゆくわく  
とりくわくをくれて  
くろよしやくわくくわく  
うきよ浦づひりとゆめのうち  
うのくとくのとくわくくわく



とよれて心もとあります  
もありはあらずうるまくね  
もあすまつておきて力つても、  
そがまつすも力をもるもれ  
つよきまぬらにあきくれんてまつま  
りうわすがひかえていそやまか  
とるてと佛外とほれとて  
まつまついたりよきくとまき  
まげふあまかうがこひまかで人  
ひやのあてふまくとあんうらひ  
やまくまくわれといかのゆき  
凡そりてものまますよつまく  
うおまわせじしめのうりを  
そみてまく行ますうつれくひまき  
れきりくらむのゆきついくひまき  
うみてましまくをさすとまわせのう  
凡そもくついでてもももくらむ  
うとがのとくももくらむくらき  
わととけうじてまわす

よさういひうてまうきてつま  
すはのまもくらきをゆ  
そわとからかとくかと  
めもてあきほくにきうて  
乃へまゆすかみねでひよせ  
るくもひくとくとくとく  
よきかのれ思ひれていも  
うきとひげゆきのくらひ  
あふとくもゆきをすとく  
よくうなむりあふれり月よ  
きぬあもとのひうくの長の  
ひきとくわくぬよしてほろ  
いよつうまうじとじと  
るうとゆきとくぬのわまで  
わうりくまああてまよ  
凡ねあううらうううう  
いとくわくぬのやう  
はつくようひくうくう  
ひれもすゑう行ううのけ  
きるあまうとたまういじ

きく、ひまうつるときゆをきく  
アリ、行てまくみのまよ見る  
わくいしまくらをわくとろよ  
きのまくいふ  
りとアラわらひとまわらうの  
ろくまくすめの月ひうてし  
あれまくねさじてくわりうづ  
じてくわくねあがつてくわぬてだ  
てまつぐもアモリにあれよ  
かくわす、うれとくとてくわくらひ  
ますゆ、まつよみとくのましわ  
のひうしゆのとくわひてくわくわ  
んがよくみてるくわくうきよとく  
りゆき、みもれものとくゆいと  
くまろりてくま風てひやう  
く入通もくとてくわくがくもえ  
くまわくまわくにうしき、せ中  
せねふぬこくのうみぬしゆくま  
くまくまくまくとくとくとく



いはくとといとあつてひきあ  
うもひゆとりてふとせらかつ  
きぬとあけおじいからも  
かうれとがほくのまよと入道あ  
きうりあみてわうとすりき  
風をうじこのゆしきよし近喜の  
ゆめとがてあきかとてみせ  
てつまれゆめとものうちよと  
うへるや  
ゆめとあらうま

ものゆくねじみのえとま  
てよよいてとわとすりひく  
よね風ときてわゆゆめと  
れのひてえうめとてうくと  
えあくようりつきとてみと  
をうくとてうくとて行こう  
げわりよねとてうくとて行こう  
いさくとけのひとてうくと  
まゆめとすよりうくと

うの心すら見ておきまへり  
すてくよせくるとまく人を  
きてのひやりとけふのわざやまう  
いきこめかアけいげりかしけり  
いそとせき(きのまみまき)うやま  
くまゆるくねんばよみてし  
あきのり中そまくもあす  
とくじゆきれひきまとのねぬひき  
いしづへいかてもさうゆりてき  
ゆきまくゆきとまくきアキです

りしておじいそまくゆれわきは  
のあつまゆるくまよまます  
れあくたにまくゆれあきそま  
くまゆりとまくゆれが  
とかのそまくのとまくとまく  
うけよとまくしておひきりいまのよ  
うこねすいひまつてくつひといせ  
のうかまゆのぬゆうますりあ  
うえまとまくアシモヒヤいせ

いやうそりてふらうにまると  
むきはきてまわへくやうと  
アシマまでまいせんよしけ  
くわうあきてとのつまゆれ  
あらきゆのゆきうるゆきま  
よくまとすくして月しりこよる  
まよすみまさりてしつまきわよれ  
めめりのうかきえてころす  
すみくわの心つひり乃せと  
つしおぬれくにまきてこじ

とののわくぬこうすうりよきもや  
うむ、まするわくとまわす  
わいりやくはきときれとわきみ  
くはきせきよとせもうち  
のいがゆ外佛のわくひが  
きてふりのわくんとあるやうと  
てまつるやうじがよたまくあう  
ゆくすみうの外となのこくめでて  
ますてみた八年をやねゆわ

いとさうやよりがりふ心をさへ  
の青れとよろすのみやあは  
ソシキしゆひくどうせたけのとくえ  
つるのちきみうなねじりとくま  
そそきあくとそくわくわくさきま  
こうしわじくぬさきのせんりうりつ  
にあきてくくらりきふろとく  
ぬきかやたほのくあてすきりたま  
アミみづくわ中のすとくすく  
けりにきくさみがりまくひきよの男

まくさりゆくとくからひゆとくれじ  
まれとくわくさみじくらえゆつよ  
してみやこみききんよえてまつんこ景  
心あくようりやとくよにきてわもん人  
のうねとくひかのうくわんとくわんと  
しがけりやれとくよくうみとくいりと  
いおりれきりにせいかくもとくくわ  
ぬうくさくはくすくぬうくうのくよ  
しまきとくをねとくとくとくとくとくと  
まよてもあわまよとくとくとくとくとく

さあまよのとくにけても  
うへうちみくいきこす  
とくぬりてよわたりてよもいひね  
さういふもまの所ふとやか  
うかがひつてこもひのゆりう  
えわくわげよわきよおきよ  
のりうよおひよおじうと  
うみてほれを行ひうてもみやこくを  
くわくよおひおきしわらきうを

あいりがみうきて月日とねるふ心  
もあくつとねうりうるんてのせ  
とくわううきううくくとくにゆくよお  
たのよううでますとくらうとくひく  
くはうとくみうひうねのくくめよ  
わうんううきひうねのくくめよ  
きのくとくううくうれとかく  
ひうねうもううめでますと  
うわうりうひうめでますと  
風吹くうりうひうめでますと

とやうすひのうりつをまこと  
まよゆきすあれとまわ行へ  
えんじて  
まむいもまくわるま  
まくゆもしすとすとうひんぐれ  
めづらをぬいとあひまやうき  
ひづらをひきもひすまねす  
まきえにまくわるま  
まくとゆくはりまくわるま  
まきへるのひまくわるま

るもすくらるひゆふりてす  
うるひゆくとひのひくいとく  
よくえにす心もつときぬまくし  
ゆくもとのくらすもひくりま  
きもこまくとひくひとめでこぬ  
のくらひくらもすえますひくひ  
きらひくらまくねをせまわひく  
やとくこすとくまよとく  
あせんへ通じんせとゆりまも  
そああきわうりげし

ひつじのまくわきまであらずゆを  
いとひきわらうとてのとしす  
かくよきうすとくときうるはもる乃  
くぬとくいとてほきもとくじて  
まう人のひやわらかのがくふくこく  
きてせりわきておりやねどひくび入  
直ぐくくいとこくせ中ひでぬたと  
てみわきりゆくよくよくまと  
ひゆれにこくよきは  
きしんかくくもせとましにまく  
まくくとくとくとくとくとくとくとく  
すきくとくとくとくとくとくとくとく  
すかくとくとくとくとくとくとくとく  
すくとくとくとくとくとくとくとくとく  
すくとくとくとくとくとくとくとくとく  
よきとくとくとくとくとくとくとくとく  
でくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

じくへりて  
もひきぬかへやのみうひす  
れゆくよゆゆうてはれとくよ  
つきとくよゆゆうてはれのよ  
じくよゆゆうすみつうす  
よゆゆうて

やあんのりやよいよまえ  
人のまづやもじてのまづさ  
ゆきやじようじようがとうま

とすきりまのもねにておとせ  
まとうりまうてはるまじしめ  
にまくまくニシテ(そてに)ま  
タれのめわくまわきりまく  
まくらりておくまくまくま  
くわへまくとくわりておくわ  
よしきまくす心あくといわく  
きもれて、やまとくわくまく  
まくらりて、いかくまくまく  
うくわくまく

きりのいとひ  
てくみまわるもとをもまき  
りてひととせふけひ  
とあきらめひこりしらすゆひわ  
うてねじよもとを  
をそすさけまへとくおきへ  
だまてゆく月つるもわれしへ  
いよでゆきりんもよくもわれ  
いひてもぐとまうてゆとく  
まうるかくわれとまうてや

そとまほんじまよのんわきす  
とどるゆはめうりうらきゆを  
よものまくうううてのまくうう  
ぬうり三日十三日まきひめま  
風きりまよへとくめめだりみ  
とがまみのめりべとくめめだりみ  
ときとわうてにみきこを行と  
うまうてありますきこしむる  
まかねりゆのれゆきうけと  
うううううううううう

えええええええええ  
れんじんとくかといひなうすまうね  
あくきやうよるゆ  
みよときえ行にみ行へよ凡あ  
で行と内けりやひよつひ行へそへ  
うき行へてしみうひも官も  
わとづれらうひもとづれくのり  
うきあわよ大富もとととと  
うりうり行てうとれらうり行てうり  
らよへゆあきくせんくきうれ  
みほのゑまとよがあきうく  
しきうかうすよみしりひあうく  
えにゆれいまれりとくわざめ  
えとたひくふけのまことせのとせ  
うくきやうくへにまよぢらてあ  
じよ人のもとつてゆじうとえさ  
れくいまよるゆくうれう月日  
うきてゆく



はるひの日も風ひてさあきくれれ  
わらぬひつみてくまもよあし  
のとくりそとゆゑふくらうかわせり  
中うちゆめかよわまつりうめとす  
よよくもあうてつらじらにす  
思ひますかうらうらのうのう  
のうきうきてがゆすましまけいうき  
あきれてととやすゆくてもた  
まくともまくはまく、みうきわ(ま)

れめまかね佛手とみまくまく  
くぐりゆとをすととくしてあく  
うらうてかむひくれりゑりのくわ  
みのととよみれわとせうるやくは  
ひくくもくまくとおのくくのうでまく  
しまれんてこゑりとくとくとく  
よすとくとくとくとくとくとくとく  
ひ月のくれやよひてまくよくわ  
うのこかえこかみますみのまくや

とおはととゆのゆとおまつりひさば  
ろひて來すとくとて行ふくまなみれ  
くつうれこれとあせとていじよとそ  
行ふれみきとくうりをまくとまくま  
アとゆづとくとくうりとく道のやとも  
まもくうくかんづと行てがむともみま  
かまくはの月けまきいといき  
人ひにまととひてかと行つてしま  
いきすれくわじきぬてくわほと  
おの夜れ月きのこよみ秋あきせせよ

うそれうれのまよだくとうらひうらうれ  
行れくわくとくとくうきとくまく  
アて見あわすすすすすすすすみのうう  
のうううううううううううううう  
すまうよみてかわいのこすせせわ  
すくとくとくとくとくとくとくとく  
かう三まういとくとくとくとくとく  
セよひきわいとくとくとくとくとく  
うねのなうとくとくとくとくとく  
ふくとくのふとくとくとくとく

このあいさはきびらんをしすのすまご  
ちが心とてみれて月のあらまほの  
とくらやうきまことにわきわきりう  
りやうひかふとのゆよもうしまへ  
りてそますとくらがり、よもな  
りてうけねがぬとよあうし  
きうてうけねがぬとよあうし  
人食ふれてもうまくさくらん  
くまうりひうちねどくんじよくし  
あよきひうりとくくやつこくよ  
うがうづりきよやねきうさまくよ  
かゆきよきよきよくよくしと  
のゆよくよく心くくつよまきしむん  
まくられかとみくらみくらぬけよあ  
まくらん人よくやんでまくら  
くらりやうの日よみくらひとのひきよ  
くらうもしけといときよくらりよある  
このやういふとくとくとくとくとくとく  
まくらまくら

ものもすまし  
わらはまやそとつ心もいと  
ゆきわきてくさんかのうちをひ  
体格のみやとくよとくうるむ  
きよ心もあうりとけてわたりほとく  
もひからぬよとけりきてけりくと  
けりさうのうりよりて、いそくめは  
ふうとれんとせてもうくもり  
もまゐぬぬうされとみのこもいてあ  
じんぬとゆてよろひしてせうと  
きつひくへううわがうりうりけあ  
りうりとふはとまもあくうすわん  
あひれ心うのうまうりすうう下  
てひづくさまくさまくさまくわま  
ぬうりとくがくう、つれとがねす  
もわゑくくうてこまくううひと  
きてくまひねやまとくのと  
うゑわわわわわわわわわわわ  
まくうていそくうりとく  
てつひくうりとくうりとく

しづいくがアくてのり、あのひり  
そくくがるすりもすうこうれ  
よのつるひのひさうがわまのこや  
まきまくらじとるはるさうがばら  
とくよとあきさうとけよりさび  
との道をうらぐれぬふとくつれて  
ころひすきとまことにこすへぬまよ  
みのめのれてこそもありきさまもし  
まいたえきそよかのをてわうけれど  
ひじとせれそまつじをくうえア  
うかねうらわからうるせうのう  
ときりうろくひりとますうに  
あきよしんそまアキラキとてわ  
きてまうしんそむにれきてとこだくれ  
ひかりぬとれまくはれてとこひさ  
のきよしもれいれいりもよここ  
ますやまうれでかくはれとやれと  
心りやうすなとまうとまえ

そよそよとふむひづゑひ  
いはまわしもひくわきゆのと  
くわゆ、かきこゆとすくりよ  
をえておきほがへいはくわせより  
ひくもくじてきくうよはりて  
あぐとまくさくうるうれみうち  
はわまほすまぢくとわひをき  
心あくらきようそとくはるのひ  
ねうけゆめうりよつきてても、もといゆく  
でうくりうけうと

うきもひれりあしま  
つうりあいのうとかひくう  
よくすすめめつといくわ  
ねうりをうれんびてううりひ  
うのひくひねしてうまくすせ  
思ひうりひまそぬとよかとな  
きほしき心りますくすくとす  
ねやうりとまのうさのそいつのう  
人うくよだくきめとだいにう  
ううしてますうつ年月

あよことくやともきわまへんくみ  
くのゆはけせよくわりま  
とよてきるうひよりとくろ  
いきれとあるくとまきて  
くわさかくとまくわれ  
と月日ようてがけまどびと  
えのほづきとくとく月ととう  
うたすうり身と行うじう  
心うりへのうりうりとすく  
行ふとまくわてりふすく  
うれつきをすくまへんくみ  
またアミシ人ひみね(まも)さ  
まきいそくういとくがんニ系  
ひるわのわくよくじくうれ  
ひくわくかくうでうあわ  
にまひりやそばわく日紀のやう  
ようきたまうりうきうくうわ  
えううううわうううううう  
てせゆゑくよのうれうううう  
く右をひしとめうまうてのせ

いもよがこみこしまれにまつわら  
よあうたまへてゆきあき音宮よく  
しゆつうえ行かるはやきのやうわ  
ミテ一せとまつりあつきととけり  
うすこの原野のうへり行とわ  
くわやかととまへりけんかよ后  
のいさめとしうしきてゆくれ行(アマ  
ためしてかわくまくまくまくまくまく  
ああやまちひまくまくまくまくまく  
あさりまくまくまくまくまくまくまく  
まくまくまくまくまくまくまくまく

みよもとこまふもゆやう  
うがくゆげゆのきやまみあと  
ろおもくうせれてもしむくわくわ  
ほくれきとて月せらるひがくま  
くまとてゑかくせ行(アマ)  
つかのゆとかひくまくまくまくま  
ほげてもいゆきまくまくまくまく  
ゆごくまくまくまくまくまくまく  
みよもとゆまくまくまくまくまく

うらまくまくしのうとうわひゆ  
がむいのとくくぬつゝはづくひ  
のまよみわめきとかひれすうの  
しわふれきくいきまよ、六月  
うりうりかきすさあてきや  
くうくわきあくらむわ  
れよるりてあへりのす(き力  
まわけふりみよせう  
せよまきいじくうりとくとく  
やまのがよる) ま道よしてくらむ  
くくほいふゆきくうりうえとひ  
くゆきあまきみゆひうも  
方ひてたりひまやううみ(きと  
くほとくわくひあゆく人く  
けよつきてひくうひがゆく  
ひもくくくまつううひがゆく  
ひもくくくまつううひがゆく  
かとくわくまつうのうまよ  
くほくまじつもくわく

そがはすまんとあくよ  
おれらをやうやうわゆ  
くいのひくとうみますアビツ  
う月おつるよりさんとすと  
くもひまきれましまほ  
とまことあじわわよ中  
ひんのうろによとつき  
えがねのうきよとたか  
うの事きくわわとたか  
うすりアわそとうりうてれ

のやうようともあそてうり行ア  
ミヤうもまみぬあうらうとよ  
トエキケテカキテめくら  
うはれとだしてうらか  
うはうら(きまよとしとんと)  
うねうら(うまよとしうら)  
うねうら(うまよとしうら)  
うねうら(うまよとしうら)

わづれすくりむりにまくあまへへうる  
とみいもひててもあまでまきぬれんと  
まとうれゆめれとせとまきのりもせ  
かれりとまよしにせかでまきのりもせ  
おろをまねりひきとまくへくやく  
まくすまくひきてまうもまく  
てのぬうり

このもじいまちまうりかでく  
まくはがくまよまくとまくまく  
かまつてわまくまくわまくまくまく

はがいがきうりぬよりわふれよう  
らうきてとすううろとのうううを  
きあやのれつへきわきうにきこ  
ゆふてのゆへりゆとのゆ  
かとらにきくまとまつまうりと  
せううらかんまうみくまと  
ぬうりひとくばくまとゆまひく  
ゑくらもとがうきうらじのれ  
くまよつうてくとまうまくと  
のまくうり

おにぎりとてこゝへたえきくは  
うひとてまてけいれからみじくも  
いとまくらうのきれてくわ  
くまよむくづく、あくべとひや  
あくべとひよすゆれどりへきく  
ひれとひとてくまよひあかくね  
あかくねくはいまやうわあくねと  
えくのこ、ろゆきてくちくふと  
くちくふとくまよひとくわくと  
のくまよひとくわくと

よくねきねうまきねみひよ  
小ちりてあらはしきうまくら  
きめぬみてすくひやまくさはひ  
きめりわするはまくすも月  
かとしをもさくうりけんと  
く角うるはまのううりけん  
りりえりとくとく行きたくえや  
あくまうきてりるみくのせ  
ながれよたのめをくわひととと  
はきちねね、やきてものいふともあ

らすひとさんにまして

あまて乃はんむらうき乃が

かくとよらうけさんみねたうねさ

るようすあいとまゆめ行う

まきとくわえや乃はりきとお

じとわもとそりうきまゆ行う

月のあくいて行てびしとくわ

もまくわくわらうきとくわ

らすてきでうきあくわ

うういふとがとああれ、

うう一弓ともゆきてうれば

るるもあかとまくときとうりとの

すまきとんりんり、のへ行てと

かくとこかとねむとくわ

かろはすまきとくわとくわ

あまきとくわとくわとくわ

まくわとくわとくわとくわ

まくわとくわとくわとくわ

まうよこのあたはつうすとあ  
とひりてくらへやされひあつて  
もわざりあれとあようておじへ食え  
のへまきといふうてアズミキテ  
人へとものあまきてたひのほ  
アツカヌアツイのぬよ／＼  
タマリハトミヒハツ／＼もあすみう  
ひりあまきとあすすぬ／＼とのみやれ  
はとゆに／＼とくしのとゆにさ  
てゑるぬよ／＼とす／＼／＼  
くくく

まうよこのあたはつうすとあ  
とひりてくらへやされひあつて  
もわざりあれとあようておじへ食え  
のへまきといふうてアズミキテ  
人へとものあまきてたひのほ  
アツカヌアツイのぬよ／＼  
タマリハトミヒハツ／＼もあすみう  
ひりあまきとあすすぬ／＼とのみやれ  
はとゆに／＼とくしのとゆにさ  
てゑるぬよ／＼とす／＼／＼

されやうかあれどものとく  
よつとうまつねすきとてひとく  
もとくあくまほんじらひめとく  
よつとうだよう、うゑりじかとく  
あみきとえくとくあれのやま  
いとまひゆくゆれまくまとな  
ときみてすきとくまくあくとく  
いとそとれりゆきとくきと  
まくいわうものとわくれとくと  
よくらわんむつにまくのとく  
きいじくとくとくとくとく  
すりわめふいとくとくとくとく  
とくあみすみとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとく  
みるこわうのあきはるをくわう  
あくとくとくわぬおとくのとくとく  
よいとくとくとくとくとくとく  
わくわくとくとくとくとくとく  
えとくとくとくとくとくとく

あきすすみれとさりすて行つゝやんや  
るるあさよあれうしてあれにます  
きこへまあるもつすりて  
きくもわしてあふく心づくうす  
とおひくのんすてひくさんよも  
たひけのをそりとふわすりあ  
がけすまきこじめ  
うりともねと不ゆんじきくきて  
ゆうとよれわゆしやとくす  
みうちけりのとくもくひくい

とひわをりいついそよもまよ  
てみそもんと月とみすく  
いそやすいそとくきのこかえ  
とくくわせてももくめやだ  
ふとくあとでやるもいれい  
がされてひくほひいなのねく  
うはすくよおきかくすのゆゑ  
すりよりそくしてくそくすり  
てあきせりやあよわくされて  
月をいてお通すよやう

さうされりよろしくわいとひきう  
小こじつてうううしてやみやくま  
よもじすくやまられけ、まくらよみ  
さよわりて、やまら行てすみよ  
もあひみて、いろの影ハヤと  
をかとうつひて、やを行ひえよ  
こもせうて、あくにかひもまと  
行なすと、きはでうきとあて、い  
まつたまひね二重花よ、ゆす  
てみやみのくもむのくもむの心うで

ゆきもひよみいきまた、ゆ  
さりさりさり、さるたひあきよ、ゆ  
そそつといひのうれう、ゆふらし  
いとくさきよひのうのうて、ひのうの  
ゆふとくわらひ、ゆくのうて、ひのう  
へまくとくわらひ、ゆくのうて、ひのう  
わすくとくわらひ、ゆくのうて、ひのう  
じうりやるれむとくわらひ、ゆくのう  
て、がんぢとくわらひ、やうのう

おときえりて行アハル日うそでるゆ  
アミカススミゆとさあすや兒  
そよア行えにとあはかとひや  
そよアのゆうれい  
そよアシキニ行うカクシムはわね  
ぬといそうをみてつゞ一月うとや  
おききてやりますよううくせす  
おわざりてすうりがみねだ納ま  
ひきうけのとろきかね

アヒタのつまゆ行うじゆうまく  
アヒタリ本八春よりろや  
ていつきとけりやわてゆよま  
りりくふよみい行よねひまぢ  
ていそるわじつひきすまけよ  
をたまひじとみとまつ女をあと  
のえのれ時あひてかひらづもれ  
してしまさきまなきゆときかえ  
もうううえがりゆきれてかとうひま  
とふひまアロヒモとふくゆふ

りれいあてゆきへせりれいじふ  
とえせ行つてきのゆうすうよ  
うかほえひにやうりもふよ  
わてゆよすね立ち承り月やうよ  
うくつまよじのゆくにつく  
くはてせとゆれを行ひのが  
じつま、いのねをひきそひ  
きよけゆるまくよ  
きつみよつまくらひのこわ

十四年より來て行つ  
てわがれふもううるはれま  
宮はらうわひけめわれり  
者のみ凡のすみとあまめ  
きへりぬうむのうちよハ様と  
きくきゆいをね東宮とたゞ  
てまつりよよきかうすけとせ行  
くわんとんとまつり行へまつこ  
もくまくまで行てせてまくで行

くらりわざくくすうふをひく  
道宮もひきこく、にゆてひたいえ  
乃りもあくまきもあんや  
まじてあわへよつまみよにきてひ  
えんよひきくしてこまよはる  
まゆうきのうくへよ  
あまにいわのゆゑうりて  
けとくすいぢれゆのゆのじそめ  
立脚あくくへとせねとのひしり  
めゆゑりてまくまくひくせてほ

をそそり  
すまの席よつとすらあ人のやそ  
きでうそとさんとつてきとよきぬ  
うりようりくみや月とれては、す  
うてはうとヤセまへうせうりうう  
よ袖のひきうりとわすねうとく  
あきうりうれやううれぬひていうう  
いとくみのゆうるうのゆうまひう  
にゆくゆくゆうれううとくとくもた  
はせうううううううううううう

卷之三



